

る時は、赤飯やぼた餅を供えて送るのが例になっている。

(話者 石井 栄)

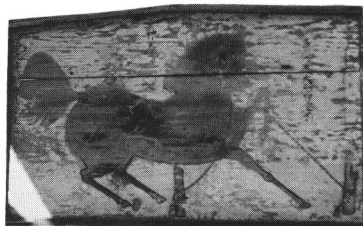
## 梓衝神社の絵馬(繫駒)

《宮 本》

慶安元年、白河城主榑原忠次が梓衝神社の社堂を修復した。その時の奉行石井角兵衛吉重、永井平右衛門吉久が奉納した双幅の絵がある。この神馬は狩野探幽元信が画いたものといわれている。

奉納当時、毎日のように馬場先の作物(麦)が荒されているので、どうした事かと村人が調べたところ、毎夜、絵馬の神馬が抜け出して飛び廻っているではないか。これは大変と絵馬につなぎ杭を書きつないだところ、それからは抜け出さず、農作物は荒されなかつたといわれる。

(「梓衝村誌考」より)



梓衝神社の絵馬

## 梓衝神社の御龍燈

《宮 本》

梓衝神社の御龍燈は、午後九時より十時頃の間に出て、あるいは午前二、三時頃に出ることもしばしばあるという。その様子は、亀居山の北側の江花川の附近を焔灯より少し小さな火の玉となって次第次第に昇って、亀居山の松の梢、一メートル位の高さに至って漸次に消え失せる。